

|                  |   |
|------------------|---|
| Title            | 第三インタナショナルに就いて  |
| Sub Title        |   |
| Author           | 加田, 忠臣  |
| Publisher        | 慶應義塾理財学会  |
| Publication year | 1920  |
| Jtitle           | 三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.14, No.10 (1920. 10) ,p.1470(132)- 1482(144)  |
| JaLC DOI         |   |
| Abstract         |   |
| Notes            | 雑録  |
| Genre            | Article   |
| URL              | <a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19201001-0132">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19201001-0132</a> |

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

行動を支配し事件を決定する所の感情の傾向に議論を進めた。歴史的通査は近代への階梯として古代及び中世史の概括を以て初まり、千五百頁を満たしたるも、根本的研究を主張しなかつた。目指す所の眞の仕事は第十四世紀に及んで達せられてゐる丈である。上古及び中世の卷が、ブルクハルトとニッチに献辭されてゐるのは、彼の意見の存する所をよく表現せるものといふべきである。

政治史と文明史とが、屢々不俱戴天の敵者なるかの如き觀を呈したのは、双方が餘りに狹隘なる定義を取れるがためであつた。何れも人文生活の記録と解釋とに外ならぬ終局目標に到達せんがために、共に必要であり又同じ程度に必要である。時の力は枝葉の非難を消散せしめ、相争へる兩學派間の峻烈なる嫉妬を緩和させた。一方がもはや條件を無視せざると同じく、

### 第三インタナショナルに就いて

加田 忠 臣

「第三インタナショナルに就いて」の一編は、近着の R. Palme Dutt: The Two Internationals. Published by the

Labour Research Department, 1920. に其の主要な材料を求め其の他英、米の労働年鑑等を参照して執筆したものである。

Marx と Engels との共產黨宣言に於ける Working men of all countries, unite! の趣旨に基つて The International Workmen's Association が設立され、各國の革命的労働運動が打つて一九〇とされたのは千八百六十四年のことであつた。此團體は十二年の間の短命に終つた。それは Marx 派と Bakunin 派との抗争の結果死滅したものである。The International Workmen's Association の終息した後十二年後千八百八十九年六月十四日 Second International の第二回會議が巴里において開催されたのは、恰度佛蘭西大革命の烽火であつた Basile の攻撃が起つた時から百年の星霜を経たときであつた。さうして其の會議は三十ヶ國から四百の代表者が出席

し、各國の社會主義運動は再び國際的に連結されるやうになつた。その後 Second International の會議は Brussels (1891), Zurich (1893), London (1896), Paris (1900), Stuttgart (1907), Copenhagen (1910), Basel (1912) に於て開催されたが、千九百十四年 Vienna において開催される筈であつた會議は大戦勃發の爲めに開催を見る事が出来なかつた。大戦の勃發と共に International Socialist Bureau に會長の地位を占めたヘルギーの Emile Vandervelde は同國軍事内閣の閣員の地位を占め、從つて Bureau は Hague に移され、其事務は Camille Huysmans を秘書としてオランダ社會主義者によつて掌握されたのである。けれども當時の International は戦争の爲めに社會主義者平常の主張である國際主義を實現することが出来なかつた。多數の交戦國の社會主義黨派は自國の政府を支持して、戦

争の遂行を主張した。この多數に對する少數の反抗は戦争の進行と共に著しく増進して行つた。さうしてこの非妥協的の少數派の Second International に對する批評、論難と露國に於ける Bolshevik 革命の成功とは Third International (or Communist International) の成立を促した大原因である。今少しく戦争中に於ける International の状態及び之に對する對抗運動の一般を記述しやうと思ふ。

二

大戦の勃發以前までは各國の社會主義者は Fabians から Bolsheviks に至るまで同一の國際團體即ち Second International の内に結合されてゐた。勿論彼等の間には其の抱懐する理論上において差異はあつたが、實際上においては資本主義の支配に反對すると云ふ共通點で僅かに結合されてゐたのである。だから彼等の間にお

ける思想の相異は社會主義の傳統的革命的辭句を用ゐた茫漠な決議によつて僅かに妥協してゐたのである。其の最も著しいものは戦争に對する決議である。第二インターナショナルの戦争に對する決議は千九百七年並に千九百十年の會議に於ける妥協の結果である。當時 Keir Hardie は非戰論者を代表し、佛國社會主義者 Vaillant の如きは Copenhagen の會議において勞働者は戦争反對の爲めに總同盟罷業の舉に出づべきを提案したが、これは國際社會主義の政治問題外として否決された。社會黨代表の多數は一定の状態の下においては國防戦の止むべからざることを認めた。こゝにおいて兩者の意見を妥協すべく Jean Jaurès によつて提案されたのが次の決議案であつた。

「戦争が勃發しやうとするときには、階級闘争の程度並に一般の政治的狀態に従て、其

の最も適當と思はれるすべての手段によつて戦争を防止するのに、あらゆる努力を用ゆるのは當該關係國の勞働階級並に其の議會における代表者——其の行動を整調すべき機關として International Socialist Bureau の助を借りて——の義務である。然るにも拘らず戦争の勃發したときにおいては、戦争を直ちに終息せしめるやう努力し、戦争によつて醸成された政治的並に經濟的危機を利用して民衆を其の眠より覺まし、さうして資本家的支配の崩壊を早めるのが彼等の義務である。」

今次の大戦の開始と共にこの決議が眞實でないことが明白となつた。各國の公認社會黨の多數は其の國の政府を支持し、さうして一小部分のみが戦争反對の擧に出たのである。今戦争反對のものを擧げると公認政黨としては、ロシア社會民主黨 (Bolshevik と Menshevik) 社會主義

革命黨、セルビア社會黨、ハンガリ社會民主黨、ルーマニア社會黨、アメリカ社會黨、部分的團體としては英國における獨立勞働黨、英國社會黨、社會主義勞働黨、ブルガリア少數社會黨、南アフリカ國際社會主義同盟、オーストラリア社會黨、カナダ社會民主主義聯盟、合衆國社會主義勞働黨で、其の他の社會主義黨派は大體において政府の戦争遂行を支持したのである。この國際社會主義における戦争賛成對戦争反對の對立は二つの特徴を持つてゐた。それは國民的對抗ではなくて、同一國民間における部分と部分との對立である。即ち戦争賛成者としての Schüdenmann, Albert Thomas, Henderson 等の對政府の態度は共に同一の立場にあり、また戦争反對者としての Haase, Longuet, Macdonald, Liebknecht 等の立場は同一である。英獨兩國においてもその交戦の事實に拘らず、政府に對して同一の態

度のもを、態度を異にするものとを生じたことである。第二の特徴はこの國際社會主義における戦争賛否の區分が實際において第二及び第三インタナショナルの區別と異なるものであることである。

三

Zimmerwald の會議が開催されたのは千九百十五年九月であつた。この會議は非戰社會主義者の第一回の總會であつた。之より先きインタナショナル復活の企ては、イタリア・スウエスの會議、アメリカ・ワシントンの會議、ロペン・アダデンにおける中立社會主義者會議等において試みられたのであるが、戦争の渦中に投じた International Socialist Bureau の幹部の活動を缺いた爲めに International の復活の試みはそのまゝ立ち消えとなつたのである。さうして International の秘書である Camille Huysmans の如

きもインタナショナル復活の爲めには各國の多數黨の協働を必要とすることを痛切に感じたのである。

斯様な状態の下において非戰派社會主義者はインタナショナル幹部の行動を俟つことなく獨立の行動を取ることに決定した。これ等の行動の第一は千九百十五年三月、Berné において開催された婦人社會主義者會議である。この會議は國際社會主義並に労働團體の婦人委員會の秘書としての Clara Zetkin によつて召集されたものである。然しこの Zetkin を秘書とする委員會は戰前のインタナショナルの一部であつたので嚴密の意味においてインタナショナルに無關係であること云ふことは出來ない。従つてインタナショナルから離れた行動は先づ Zimmerwald の會議を以て初めとする。この會議は非戰的行動を採つてゐたイタリア社會黨によつて

千九百十五年五月に其の召集を決定されたのである。さうして會議は更に千九百十六年四月、Kienthal 並に千九百十七年九月 Stockholm において開催された。

Zimmerwald 委員會の組織はインタナショナルの分岐の歴史における分水嶺である。反對は以前から有してゐた。今や其の反對は組織されたのである。斯様な理由から Zimmerwald への代表者の顔觸並に其の参加團體は甚だ重要である。右の會議に委員を送つた黨派並に部分的團體は次の通りである。

- 英國……獨立労働黨、英國社會黨(英國の代表者は其の黨公認のものであつたが、渡航免狀を得られなかつた。)
- イタリア……社會黨
- ロシア……多數派社會民主黨、少數派社會民主黨、社會主義革命黨、猶太人社會主義同盟
- ポーランド……社會民主黨、猶太人社會主義同盟
- リトアニア……社會民主黨
- レットランド……社會民主黨

- ルーマニア……社會黨
- ブルガリア……少數社會黨
- フランス……社會黨極左派、労働總同盟少數派
- 獨逸……獨逸社會黨少數派
- スウェーデン、ノールウェー……青年社會主義聯盟
- オランダ……國際社會黨
- スペイン……スペイン社會黨非公認代表

會議の經過は非戰決議を重要な目的とした。獨逸、佛兩代表の名を以て帝國主義に對する國際労働階級の協力一致的對抗の必要ありとする宣言書が發表された。さうして其一般的決議の署名者は獨逸の Ledebour, Hoffmann, 佛國の Merheim, Bouderon, イタリアの Lazzari, Modigliani, ロシアの Lenin, Axelrod, Bobroff 等があつた。この會議の顔觸れを見ると Modigliani や Axelrod のやうな中間黨や、Ledebour のやうな左黨、Lenin の代表する極左黨があつて、其色彩は一致してゐるものではなかつた。さうしてこの會議の根本的一致はたゞ非戰の一事である。



この點に於いてインタナショナルの崩壊、分裂は問題ではなく、たゞインタナショナルの行動を促進するのが其の目的と云つてもよかつたのである。この間にあつて新インタナショナルの必要を力説したのは Lenin であつた。

然しこの状態は長く續くとは出来なかつた。公認の Bureau と非公式の委員會との兩立が其の必然の闘争に導かれた許りでなく、また非戦論の論理的歸結は現在の資本主義的國家と絶對に絶縁することである。即ち一國の存立が危くされたとき(またはさう思はれたとき)に於いて祖國の防禦を否認するのは現在の民族的國家の一員たることと、之を防禦する其義務とを否認することになるのである。かくて Zimmerwald の會議に参加した黨派は各々かゝる見解に近いで來ると共に Lenin の見解は其の多くに受け容れられ、著しく革命的色彩を濃厚にしたので

ある。Zimmerwald の會議の後六ヶ月を経過して開催された Kienthal の會議の決議と Zimmerwald のそれとを比較して見るとは、そこに大なる差異を發見する。Zimmerwald の決議は徹頭徹尾平和を求める叫びである。即時平和、無賠償、無併合、民族自決の平和であつて、社會主義のことに就いては云ふ所が甚だ少なかつた。然るに Kienthal の決議は資本主義下における平和の到底一の幻想なることを宣言し、平和問題の唯一の解決は民衆の政治的權力の征服と資本の所有とであり、眞の永續すべき平和は社會主義の勝利の結果においてのみ獲らるることを宣言した。

かく社會主義は革命的色彩を帯びて來たが、それは未だインタナショナル内の分裂を惹き起す程のことではなかつた。この點に於いて Lenin の立場は尙ほ少數であつた。けれども第三イン

タアナショナルへの傾向は大體において千九百十七年九月 Stockholm の會議において決定されたと云つていい。而して千九百十七年三月における露國革命は眞にインタナショナル内において決定的な危機を醸成したものである。この露國革命によつて起された直接の結果はインタナショナルの復活への衝動である。千九百十七年の夏は Stockholm に於いて國際的會議を開催すべき種々な試みが行はれたのであるが、それは皆失敗に終つた。けれども革命的社會主義者は一時も猶豫することが出来なかつた。ロシアの三月革命は資本家的政府の擡頭によつて再び危機に際會した。Kerensky, Miliukov の内閣は其の帝國主義的政策によつて革命の目的を没却しやうとしてゐる。遂に反動勢力を樹立する目的で Korniloff 將軍は Petrograd に進軍して來た。危機は再び迫つた。この時に當つて過激派

は其の革命を成就したのである。さうして革命主義者はストックホルムの失敗の後第二インタナショナルから分離することに決定し、急遽會議を九月十二日同所に開いて分離の決議をし、單獨の革命的行動を取るに至つたのである。十一月における Bolshevik の活動と共に革命主義の行動は初まり、この行動と共に第二インタナショナルからの全離は完全なものとなつたのである。

#### 四

以上の形勢は第二インタナショナルにおける危機を醸成したものであるが、第二インタナショナルが千九百十四年に其活動を停止してから以後、再び之を復活せしめやうとする試みがないではなかつた。此試みに參加した社會主義者は第二インタナショナルから分離しやうとする形勢にあつた革命主義の社會主義者では

なく、もつと温健な主張を有するものであつた。其の行動は主として戦争の終熄した頃から始まつたものである。千九百十九年二月の Bern 會議、同年四月の Amsterdam 會議、同年八月の Lucerne 會議が即ち之である。是等の會議において戦争の責任問題、平和問題殊に國際聯盟、國際労働法規、ロシア過激派問題殊に其の無産階級の專制の問題等に就いて其の温健な社會主義的見地から諸種の決議を行つたのであるが、第二インターナショナル復活の問題は之を直ちに解決することが出来なかつたのである。

巴里の護和會議は恰度其の幕が切り陥され、Bern 會議の開催までは幾等の日數のあつた千九百十九年二月二十四日に Moscow から他國の革命的團體宛に無線電信は送られた。この無線電信は第三インターナショナル(又は共產主義者インターナショナル)の創立會議への招待

狀であつた。その招待狀はロシア共產黨(ロシア多數派社會民主黨は千九百十七年の革命以後この名稱を採用した。共產黨宣言の昔に歸つたのである。)の名によつて發送せられ、ポーランド、ハンガリ、獨乙、オーストリア、レットランド、フィンランドの共產黨とバルカン革命的社會主義聯盟の賛助を受けてゐた。

招待の目的は共產主義の目的に同情ある革命的労働並に社會主義團體を召集し、會議を開催して國際共產黨を形成するにあつた。招待を受けたものは、第三インターナショナルの目的に一致し、其の團體に正當に加入し得る三十九の團體であつた。さうして第三インターナショナルの綱領は招待狀中に定められてゐた。この綱領は獨乙のスバルクカス同盟とロシア共產黨の綱領によつて定められたもので、其の主要の十五の原則から成立し、共產主義の目的と政策並

に國際黨組織の提案から成立してゐるものである。其の目的は全世界の資本家的組織を解体せしめる目的を以て一般的無産者階級の dictatorship を行ふことである。この目的と手段とに關して始めの五項は費されてゐる。次の七項は他の社會主義團體との關係、即ち所謂共產黨と愛國的社會主義、中間黨、革命的左派社會主義との關係を論じ、前二者を革命に反對するものとして非難し、第三に對しては全く共產黨化すべしとしてゐる。残りの二點は國際共產黨即ち第三インターナショナルの組織に關することである。その名稱を國際共產黨と稱し、國際共產主義運動を指導すべき戰鬥的機關を形成するにある。さうして其の根本原理は各國における運動の利益を全體としての國際的革命の一般的利益に從屬せしめることであつた。

五

斯様な根本思想の基礎の上に第一回國際共產主義會議が Moscow で開かれたのは千九百十九年三月二日から六日に掛けてである。この會議に出席した代表者の多くは在露各國革命的社會主義者であつた。と云ふのは各國からこの會議に参加する爲めに出發しやうとした委員連は或は本國政府の壓迫により、或は中途の抑留によつて、勞農露國の首府に達することが出来なかつたからである。然し會議においては十九團體が完全な投票權を持つて代表した。勿論其の中の一二に就いては公式の代表者でなくて個人の資格を以て出席したものもある。また他の十六團體の代表者は諮問權を持つて出席した。

會議の仕事は次の通りであつた。

一、報告の提出

二、國際共產黨の綱領

三、有産階級民主主義と無産階級の專制

- 四、社會黨並に Bene 會議に對する態度
- 五、國際的狀態と聯合國の政策
- 六、委員の選舉と組織

會議の主要の仕事は二つに分れてゐた。其の第一は宣言並に綱領の起草である。この宣言並に綱領は三月十日 Rakovsky, Lenin, Zinoviev, Trotsky, Platten の署名によつて公にされた。其の根本思想を極めて簡単に云つて見ると次の通りである。現在の國家は階級的支配の機關である。さうして其の政治的機關において代議政治による民主主義なるものも資本家階級の專制の機關たるに過ぎない。故に何んなに政治的民主主義が發達しても被支配階級である労働者階級は救はれることはない。然らば共產主義者は如何にして資本主義の崩壊を助長することが出来るか。元來資本主義の經濟組織なるものは段々と生産力の要求に應ずることが不可能になり、

恐慌を醸成する。一方被絞取階級である労働者は其の數を増加して來ると共に、資本主義の價値に對する自覺も、其の組織の發達と共に、増進し、遂に資本主義に對して反抗を企てるに至る。共產主義者の使命は實にこゝに存する。この無産者階級の資本主義に對する反對を指導し、單なる混亂に導くことなく、無産者階級の Dictatorship によつて労働階級を支配力に組織し、労働者以外の者に權利を授與しないにある。かくして労働階級の資本主義に對する勝利を確實にしなければならぬ。然し共產主義者の事業はこゝに終つてはいない。労働階級の專制は其の資本主義との對抗において必要ではあるが、そのことのみが共產主義の理想ではない。労働階級の專制は手段であつて、目的ではない。その目的は共產主義社會の樹立にある。階級なく、抑壓なき社會の樹立に至ると強制的權力は

不用である。この階級的抑壓のない社會を樹立することが共產主義の窮極の目的である。彼等は以上の様に其の根本思想を宣言してゐる。

會議の第二の重要な事業は第三インターナショナルの規約を定めることであつた。先づこの目的の爲め Zimmerwald の組織を新インターナショナルに取り容れることに決した。この爲めに Zimmerwald の組織は解體されたのである。然し、第三インターナショナルの規約は第一回の會議においては其の全部を定められることなく、たゞ執行委員會と其の作用に關する部分のみ規定され、他の條項は第二回の大會(期日未定)まで未決定のまま延期することになつた。さうして第三インターナショナルは成立し、其參加團は次の如くである。

- アルゼンチン……………共產黨
- アルメニア……………共產黨

- オーストリア……………社會黨
- オーストリア……………共產黨
- ベルギー……………共產黨
- ブラジル……………共產黨
- ブルガリア……………共產黨
- 支那……………社會主義労働者黨
- 朝鮮……………労働團
- デンマルク……………左派社會民主黨
- エストニア……………共產黨
- フィンランド……………共產黨
- シエボルギヤ……………共產黨
- 獨乙……………共產黨(スバルダカス團)
- 英國……………英國社會黨、社會主義労働黨、労働者社會主義聯盟、サウス・ウェルズ社會主義者協會、國民労働者委員會
- ギリシア……………社會主義労働黨
- オランダ……………共產黨(前社會民主黨)
- ハンガリー……………共產主義労働黨
- イタリヤ……………社會黨、サンデカリスト同盟
- 日本……………社會黨
- ユーゴスラビア……………社會主義労働黨(前セルビア社會黨を含む)
- レットランド……………共產黨



- ソトアニア..... 共産黨
- メキシコ..... 共産黨
- ノールウェ..... 労働黨
- ベルシヤ..... 共産黨
- ポーランド..... 共産黨
- ルーマニア..... 共産黨(前社會民主黨)
- ロシア..... 共産黨(前多數派社會主義労働黨)
- 南亞..... 國際社會主義者同盟
- スウェーデン..... 左派社會黨
- トルキスマン..... 共産黨
- ウクライナ..... 共産黨
- 合衆國..... 社會主義労働黨、共産黨、共産主義労働黨)

斯様な経路を経て成立した第三インタナショナルが幾何の壽命を保持するかは一にロシア勞農共和國の共産主義の成功、不成功に掛つてゐると云つていいだらう。其の命數のことは兎に角第三インタナショナルの出現は社會主義運動史においても、また社會主義學說史上においても重要な出來事であつて、吾々社會思想を

研究する者の觀過し得ない所である。今や第三インタナショナルの中心思想である労働階級の專制は社會主義學者の論争の中心點である。労働階級の專制を主張する Lenin と反對の立場にある Kautsky との論戰が社會思想家の注目焦點になつてゐることに見てもこの新運動の社會主義史上に占むべき地位は明かであらう。  
(千九百二十年九月十六日稿了)

ラッセルの思想とウヰリアム・ジェームス (三、完)

奥井復太郎

『人類は他の下等動物に比して生得の本能並びに衝動を有する事其の種類遙に少なきを以て彼等と區別し得可しと爲すは屢々唱へらるゝ所

なれ共其は一の大なる誤なり。勿論人類は或種の關節動物の有する驚嘆す可き産卵の本能を有せずとするも若し吾人が人類と哺乳類とを比較せんか吾人は人類が如何なる他の哺乳類に比するも遙かに多くの事物の存在に依て在右せられ易く然も此等の事物に對する其反動も著しく特殊的にして且つ既定的なるを認めざるを得ず。猿類殊に類人猿のみが彼等の分析的好奇心及び摸倣性の廣汎なるに於て人類に追從するを得る唯一の動物たり。眞に人類の本能的衝動はその秀れたる推理的能力に依る二次的反作用に因て覆はるゝとは言へ斯くして人類は單に本能的行動の形體を失ふに止まり本能の生活は唯彼等の内部に於て他の形體に假託するのみにて決して消滅したるに非ず。而して屢々、羸弱性及び瘋癲性に於て發するが如く高等なる頭腦の職能の中絶せる時に在りては彼等の本能は往々實に野生

獸と等しき方法に於て其の存在を表すもの也。』  
(W. James: Talks To Teachers On Psychology: and etc. pp. 43-44)

ジェームスの斯かる考察は既に吾人が前稿に於て一言せし處にして『人は先づ實際的動物也』とする彼の思想は人類に於ける理性の發展を説ける彼の記述の中に明なり。  
『人類は漸次進化によつて下等より高等に移り行ける下等動物を其の祖先として進化したるものにして此等の祖先に在りては純然たる理知は殆ど存する事なく、又其の精神と稱す可きものが何等かの職能を備へたりとせば、そは優種をして壞滅を免れしめんが爲めに外界より受くる印象に彼等の行動を適合せしむる一個の器官たりしならん。當初に於て意識は生物學的に完全なる一形體に於ける附加的一物に過ぎざりしもの如く夫が若し効益ある行爲に導くに非ざ